

FC岐阜 大好き 通信

『きだいどおり』ではありませんが、そう呼んでいただいてもOKです。FC岐阜のサポーターが小さな話題を集めてお配りします。試合前の時間つぶしにご利用ください。会場に残されるとごみになっちゃいますので、お持ち帰りください。会場美化にご協力を。



門番の錠は錆びたのか？

後期第01節 **Honda FC**戦の巻

6月29日(金) 19時～
岐阜メモリアルセンター長良川競技場

衝撃の「監督交代」を受けた前節のガイナレ鳥取戦。先制されるも、Bチームから昇格していきなりスタメンの松江の同点ゴール、そして片桐のハットトリックで4-2と快勝。前期は3位の折り返しとなった。今日の相手は開幕戦の相手にして前年度JFL王者のHondaFC。歴史・実績すべてにおいてFC岐阜とは比較にならない名門だ。これまで数多くの「J昇格」を目指すクラブの前に立ちはだかり、誰が呼んだか「JFLの門番」。今年は意外な不調で10位に沈んでいるが、とても侮れる相手ではない。しっかり自分たちのサッカーをして勝利をつかもう。

◇投稿：前期17試合のベストゲーム、ベストゴールは？

- 三菱水島戦、初登場ジョルジーニョの途中出場直後、強烈な振り向きざまのシュート。岐阜に一步も引かずやりあってきた水島イレブンの心を折る一撃でした。(TAG)
- はっきり言ってない。すべてにおいて相手に助けられているという感が拭えない。まだ入れ替え戦の伊藤選手のPKの方が印象深い。あと池元選手の入れ替え戦を決定づける長崎への惜別弾。(ヨーゼフ)
- ベストゲームは、今のところ、ジェフリザーブズ戦です。守備は組織で前からプレス、アイデア万歳の意表をつくヒールなど。個々の力でこじ開けるプレーとしては十分かと。それを続ける90分間の難しさを表す後半。連携不足を表す1点目の失点シーン、走り負けした2点目。狂った歯車の修正力はピッチ上の一部の選手に無いということ。サイドを崩されたわけではなかったのに単純に力負け。組織力で個の力を消した戦力分析の勝利。上に上がるという意識が相手のほうが高かった。ベストゴールは、流通経済大学戦の菊池完。私がRSB出身なのでこのゴールは格別。コースを読んでのパスカット、そのままオーバーラップ、時間差ワンツー気味のスルーパス、相手DFを振り切ってコースへ蹴り込む。ボールをとってからの流れも良かったですね。最終ラインからのゴールということも、相手11人を2人(手)で攻略したということ。某新聞では「規格外」と書かれましたが、攻略シナリオに基づいたゴールでした。(ち～な)
- ベストゲーム→ロツ熊本戦(大津)。相手FW高橋泰を完璧に封じた点
ベストゴール→流経大戦(長良川)の3点目、菊池完のゴールです(リペロ)
- あえて、開幕のHonda戦をあげたいと思います。ラッキーパンチの様なシュートが決まって苦戦の中で勝てたのですが、結果的にはこの勝利で連勝街道を走るきっかけになったと思います。昨年の優勝チームに勝利。これは今年の一勝としては大きいと思います。(TEDDY)
- ベストゲーム。今期全試合見た中で盛り上がったという意味では鳥取戦。片桐選手のハットトリック等があって、今期最多の4得点だったこと。ベストゴールは、ゴールの重みという点で、鳥取戦での松江選手のゴール。昨年もBからAに昇格して活躍するも、今年、またもBからのスタート。しかし、昇格してすぐのスタメン起用に応えるゴール。チームに刺激を与えた。これは、Bの選手にも、俺たちも上でやれるという自信を与えたという意味では、ベストゴールに入れても良いと思う。(緑の小太鼓)

直近3試合の結果

- 前15節 ● 岐阜 1-2 千葉 (岐阜得点者: 山田)
前16節 ● 佐川 2-1 岐阜 (岐阜得点者: 小島-PK-)
前17節 ○ 岐阜 4-2 鳥取 (岐阜得点者: 松江、片桐3)

順位表／TOP9

- 前期第17節現在
1. 佐川 39pts +23
 2. 熊本 37pts +18
 3. 岐阜 36pts +12
 4. YKK 31pts +10
-
5. 千葉 28pts +5
 6. 北陸 27pts 0
 7. 栃木 25pts +7
 8. 横河 25pts +6
 9. 水島 25pts -1

次回HomeGame

後期第2節
アローズ北陸戦
7/6(金) 19:00
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

“FunkyFridayNightGame”
第2弾！働いてる場合じゃないぞ！

投稿募集！

次号は企画コーナーはありません。鳥取戦、Honda戦の感想や、Awayアローズ戦の思い出、「王様の耳はロバの耳～！」的な話まで…もちろん掲載されれば広まりますよ(笑)。

gidaidohri@hotmail.co.jp
お待ちしております！

Today's Guest - welcome to GIFU - HondaFC

1971年に本田技研工業サッカー部として創設。4年後には日本リーグ(JSL)に昇格、以来継続して全国リーグで戦う名門。1990、92年度には天皇杯で4強。96年度はヴィッセル神戸を抑え旧JFL優勝。2001、02、06年度新JFL優勝。過去に北沢・黒崎・本田泰人・呂比須ワグナー(当時はロベス)らが所属。最近でも、古橋(C大阪)宇留野(甲府)を輩出する。ホームスタジアムはHonda都田(みやこだ)サッカー場。柏・日立台と並び屈指の“臨場感”を誇る。

吉田鑄造の
カミングアウトして
よかですか？

JFLは「J2昇格リーグ(つまりJ3)」と受け取られることが多いけど、プロ化の意思がないクラブにとってはここが“最高峰”となる。そして、そんなクラブの代表がHondaFC。ここほど『JFLにいたいことを“誇り”にしている』クラブをばくは他に知らない。03年度の天皇杯でFC東京と対戦した際は、Hondaサポはかつてのライバルを意識して「東ガスさんお久しぶりです」ダンマクを出した。3年前の大塚製薬戦@鳴門では、これまた当時のライバルが「徳島ヴォルティス」としてJ加盟を目指していることを受け、もうリーグ戦で対戦できない想いを「勝って徳島にサヨナラ」ダンマクに託した。あの時は、その試合を最後にHondaからC大阪に移籍する古橋達哉に対して、試合終了後に大塚サポから「フルハシコール」が起き、古橋は大塚サポの前まで行って挨拶し「Jで待ってます！」と叫んだ。その古橋と徳島は、今年J2で対戦している。

And Football is going on.

裏面にも
投稿コーナーがあります。
お読みください。

◇投稿：監督交代について（お詫び：全文掲載のため、改行を省略させていただきました）

●6/23 FC岐阜の再出発を賭けたガイナレ鳥取戦。鳥取サポーターが掲げる横断幕の中には有名な某私設JFLサイトのトップページを飾ったこともある「言い訳する前に勝て！！！」という辛つな1枚があった。岐阜の横断幕を準備しながらそれを眺めていた僕はふとあることを思った。察するに「言い訳する前に勝て！！！」という鳥取サポーターの叫びは、なかなか勝てないチーム状況（岐阜戦の前の段階で4勝6敗6分）に関してチーム関係者から出る「言い訳」とも取れる発言に業を煮やしてのものと思われる。それがオフィシャルなものであってもなくても。彼らの苛立ちは鳥取サポーターが選手紹介の際、自軍の監督の紹介アナウンスにブーイングで応えたことから見て取れる。この是非はともかく勝負の世界、勝てない監督はこんなものだ。対して戸塚前監督の交代劇を取り巻く状況はどうだったのだろうか？松永ヘッドコーチへの交代が発表された時点で10勝3敗3分の3位、一見するとJFL初年度としてはチーム全体としても監督の手腕としても申し分ないように見える。しかしながら重度の得点力不足が指摘され勝ち試合でも戸塚監督のコメントは冴えなかった。これはすなわち「勝てているので言い訳にすらならない。」という状態だったのではないかと？苦悩の戸塚監督の試行錯誤は結果として自慢の守備力にもほころびをきたすに至り、いいところなしの連敗。ここを限界と見て取ったフロント（おそらくは今西GM）から事実上の解任を突きつけられる結果となった。サポーターからの非難にさらされている鳥取はそれでもすこしずつ体勢を立て直しつつあるようだ。「言い訳する前に勝て！！！」と激を飛ばされ奮起しないわけには行かない。リーグ戦はまだ半分を残している。一方ファン、サポーターなど外部からはさして大きなプレッシャーを受けていないにもかかわらず、なお独りで苦悩する結果となってしまった戸塚監督。そして突然の交代劇に我々がさらされたショック。それらの要因が「ひとまず勝っていた」ことだったとすればこれはあまりに皮肉だ。（TAG）

●まず時期に問題あり。監督交代も松永氏ももっとコーチとして表に出て来るようになり、サポーターにも松永氏の色（戦略的にも人間的にも）が判ったあとで交代で良かったのでは。いずれ松永氏になることは判っていたが、唐突で理由も分かり切ったもの。しかもBで指導していたとしても、実際肩書きがヘッドなんだから、もっとAの試合に顔ぐらい見せていても良いじゃないか。まして選手にも言ってなかったようだし・・・ちょっとドタバタしすぎじゃない!?JFL新体制になって戸塚イズムが浸透する半ばでの監督交代劇は、フロントへの不信と今後のFC岐阜にどう影響するのか。少し心配になってしまふ。（ヨーゼフ）

●「この成績で？」と思う向きもあるかもしれないが、負けを重ねてチームがどんどん悪循環になる前に手を打ったということだと思う。チームにとっても、まさに苦渋の決断であることは想像に難くないし、選手にはこれを発奮材料にしてもらいたい。（リベロ）

●突然の監督解任、正直それも決めたFC岐阜今西GMに憤りを感じました。確かにメンバーは元Jプレーヤーも多く今以上の成績を望んで居たのかもしれないが、成績が決してむちゃくちゃ悪いわけでもないし、必要なS級ライセンスがないとのことでの解任なら当初からそんなことはわかってたはず。何故今なのか？！それが納得いきません。地域密着を掲げてるFC岐阜なのになにより市民やサポーターに愛されている戸塚監督をいきなり解任するということはやってることと、言ってる事が違う気がして・・・。地域密着を目指すなら応援する私たちにも説明をしてもらいたいものです。試合後、会見が予定されていたにも関わらず逆切れして会見しない今西GMこそ解任していただきたいです。（natsuki）

●プロの厳しさを選手に伝える為の荒療治だと思いたい。プロは結果でしか評価されない事を伝える為の手段だったのでは。悲しいけど、ずーっと戸塚さんが監督を続けるのは出来ないうえです。これもチームの歴史の一つ。苦難の歴史かもしれないけど、この事を転機として選手・サポみんなで勝ち抜いていきたいと思えます。（TEDDY）

●いずれ交代の時はやって来る！と解っていたが、かなりショックでした！食欲魔神、胃袋人の私でも食が進まぬ回かを！初めは、何で今か！？と思ったが、考えてみれば、ライセンスが無い戸塚さんだが人望も厚いし、チーム(会社)は連敗のトキを待ち構えていたとしか考えられない……。選手は思うように走れない！！どんなボールだろうが、その先に待っているのは、対戦相手チームの選手！どんなに走れ～もっと早く走れ～と叫んでも、体力も無い！個人、個人、個人どこまでいっても味方がいない！このサッカーは見ていて楽しく無い！選手が楽しんでサッカーしてない！だが、FC岐阜のサポは素晴らしいから、必死に応援続けてるのに、選手にはそれに代る力が無い！今、決断した今西GMは正しい。チームは今奮起しなければ、Jへの道はひたすら遠い夢物語に終始する。戸塚さんがまだまだ考えていた事があるのに、潔く退いた、と言う事実をしっかりと受け止め、チームもサポーター軍団も頑張っで欲しいです。（KAZU）

●誤解を恐れず言えば、解任は仕方なかったと思います。理由はレベルの食い違いです。ジーコの言ってることと戸塚さんの要求は本質は同じです。そしてそれは代表レベルでも実現不可だったのにJFLで実現できるわけがないってのが現実でした。そういった意味では岐阜に戸塚さんは早すぎたのかもかもしれません。S級云々を言う人もいりるけど自分はそれはあんまり関係なかった気がします。だって誰とは言わないけどS級持ってるアレな人いるしねえ…。松永さんは派手さには欠けるけど、堅実さでは戸塚さんに勝ります。今西さんとサッカー観も近いと思います。逆に言えば、これで岐阜は勝負賭けたと言っていいでしょう。土曜日のガイナレ戦を落としていたら取り返しつかなかったかもしれないです。選手の自信を回復させるのがまずは第一ではないかと思えます。それはガイナレ戦の勝利だけでは足りないです。今日対戦相手のHondaは順位こそ低迷していますが、地力は間違いなく上位。金曜ナイターでサポの頭数も足りないから一人一人の責任重大です！さあ戦え！FC岐阜！！（ジュニア）

●鳥取戦の結果を見ると、よかったのではないかと。理由としては、まず4-2で勝った事。そして、片桐選手がハットトリックと結果を出したこと。その片桐選手ですが、今回の監督交代によってやっと危機感を持ったように思う。その証拠に鳥取戦では、高校選手権や昨年、ここぞというときに履いていた「蛍光スパイク」で出場。本音を言えば、佐川急便戦で履いて欲しかったのですが。そう思うと、戸塚監督が「蛍光スパイク」を見たときの心境はいかばかりだったのだろうか…。(緑の小太鼓)

●成績面だけを見れば不可解かもしれませんが、内容面を含めると、ごく妥当な判断だったと思えます。今季に入ってから、試合内容の悪さはずっと指摘されていたことですが、それに対して戸塚さんは「選手の成長を待つ」「選手が自分で考えて打開するべき」etcとおっしゃってました。それは確かに一理あるのですが、FC岐阜が「今年J2昇格を目指す」と公言し、それに向かって突き進んでいる現状では、ややもするとクラブの方針とはかけ離れてしまいかねないでしょう。もし例えば、選手が思うように成長しなかったらどうするのか。また、今いる選手の経験を以てしても打開できなかったらどうするのか。そういったエクスキューズに対する明確な指導方針を、戸塚さんが示すことができなかったのは最近の試合内容やコメントを見れば、明らかだったと言わざるを得ません。また、アウェイYKK戦以降の3試合では、相手チームの監督との「指導者としての力量差」が浮き彫りになっていました。90分間の中では有利な時間帯もあれば、不利な時間帯もあります。その不利な時間帯をどうやってチーム全体で凌ぎ、こちら側に有利な体勢に持っていかうというノウハウや指導といったものが、戸塚さんからは出ていなかったように見えました。岐阜に来るまでチームを率いた経験がほとんどなかったこともありですが、選手個人としての経験は豊富であっても、それをチーム全体に活かす術に苦んでしまったと思われまふ。ただここで間違えてはいけないのは、「現時点での『監督としての戸塚哲也』は今の岐阜にはそぐわない」ということだけであって、「戸塚哲也そのもの」を否定するわけではない、ということは決して忘れてはならないと思えます。戸塚さんが選手のみならず、サポーターに語りかけた言葉は実に分かりやすく的確を射たもので、初めてサッカーを見る人にとっても「サッカーというスポーツの面白さ」を教えてくれたような気がします。技術論、戦術論ではないサッカー論で、これほど明快に語れる人はそうそういないかも。戸塚さんには感謝とともに、「いつか必ず、Jの舞台で戦いましょう。」という言葉を贈りたいです。本当に、有難うございました！（あふろん）

●戸塚前監督は、外見こそ「チョイ悪」でしたが、僕たちサポの前では常に穏やかで紳士然とした方でした。そして、いつも選手たちを優しく見詰め、個々の能力を信じ、自主性を重んじた指導方針を貫かれたと思えます。今期、選手たちが苦しみながら「自分たちのサッカー」を摸索している時も、選手たちが自力で解決する事を信じていたのでしょう。そして、その想いはいつか実るはずでした。しかし残念ながら、今のFC岐阜を取り巻く状況が、その時間を許してくれなかった。「何としても今年でJへ」…今回の監督交代によって、チームはその覚悟を固め、その決意を僕たちに示したのだと思えます。前節の試合からすると、松永新監督は組織的なサッカーを志向される方だと感じました。「個」の戸塚式サッカーと「組織」の松永式サッカーが融合した時、そこには新たなFC岐阜のスタイルが待っている…いや、前節それが垣間見えたような気がします。ありがとう戸塚前監督。チームを、選手を、そして岐阜の地を愛してくれた貴方のことを、貴方の笑顔を、僕たちは忘れません。いつか再会できると信じていますので、さよならは言いません。そして松永新監督、これからよろしくお願ひします。僕たちは貴方に夢の続きを託します。貴方を信じて、これからはFC岐阜を力の限り応援し続けます。（ささたく）